

山形県内の一酪農場で多発した牛マイコプラズマ乳房炎の 分子疫学解析及び清浄化に向けた取組

小松智彦^{1)†} 大橋郁代¹⁾ 福澤知夏²⁾ 富樫 彬³⁾
土谷佳之⁴⁾ 秦 英司⁵⁾

- 1) 山形県 置賜家畜保健衛生所 (〒999-2232 南陽市三間通 444)
- 2) 山形県 中央家畜保健衛生所 (〒990-2161 山形市大字漆山 736)
- 3) 山形県 農業共済組合 (〒994-8511 天童市小関 1333)
- 4) 岩手大学 獣医学部附属 産業動物臨床・疾病制御教育研究センター
(〒020-8550 盛岡市上田 3 丁目 18-8)
- 5) 農研機構 動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台 3 丁目 1-5)

(2025 年 6 月 23 日受付・2026 年 1 月 13 日受理・2026 年 6 月 30 日公開)

要 約

山形県内の一酪農場で、2020 年 11 月から 12 月にかけて搾乳牛 9 頭の乳汁で *Mycoplasma bovis* (*M. bovis*) 感染を確認した。感受性抗菌剤による治療を実施し、治療後も *M. bovis* 感染が認められた牛（不顕性感染牛）を淘汰し、終息に至った。約 2 年後、*M. bovis* 乳房炎が多発し、分離株のパルスフィールドゲル電気泳動、*Multilocus sequence typing*, 最小発育阻止濃度、薬剤感受性に関与する一塩基多型解析の結果から、同一由来株が原因である可能性が高いことが示唆された。その後、新たに乳房炎に罹患した牛はすべて *M. bovis* 検査を行い、感受性抗菌剤による治療と不顕性感染牛の淘汰により 2024 年 2 月に終息に至った。その間、のべ 63 頭の *M. bovis* 乳房感染牛を確認し、21 頭を淘汰した。一方、*M. bovis* 乳房炎の治療後 3 カ月の間にさまざまな微生物による乳房炎再発が 57.1% の牛で認められた。これは *M. bovis* 乳房感染による宿主免疫応答の疲弊化による影響と考えられた。

——キーワード：乳房炎、分子疫学、マイコプラズマ・ボビス、不顕性感染。



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/6/79_e70/_article/-char/ja

----- 日獣会誌 79, e70～e78 (2026)